



共催：国際自然保護連合日本委員会、(公財)日本野鳥の会、(公財)日本自然保護協会、
(公財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン、(公社)大阪自然環境保全協会、
日本野鳥の会大阪支部、大阪市立自然史博物館
後援：日本景観生態学会、応用生態工学会、自然環境復元学会、日本緑化工学会、日本生態学会、環境社会学会、
環境科学学会、環境アセスメント学会、関西自然保護機構、日本鳥類保護連盟「コアシサン研究センター」
日本造園学会



Nicola Crockford ニコラ・クロックフォード

英国王立鳥類保護協会（英国BirdLife）の主席政策責任者であり、BirdLife Internationalのグローバル・フライウェイ・プログラムの政策リーダーを務めています。渡り鳥保護条約におけるBirdLifeの窓口として、密猟の阻止、エネルギーインフラへの影響の最小化、沿岸湿地の保全、アフリカの持続可能な土地利用に注力しています。過去15年間、東アジア・オーストラリア・フライウェイの渡り性水鳥の再重要種であるヘラシギについて、RSPB（英国王立鳥類保護協会）とBirdLifeの政策活動を主導してきました。この活動は、中国と韓国の世界遺産登録支援を含む、黄海沿岸湿地の保全に重点を置いています。

道家 哲平 DOHKE Teppei

日本自然保護協会ネイチャーポジティブ担当。国際自然保護連合日本委員会会長
国際自然保護連合世界保護地域委員会・環境教育コミュニケーション委員会所属
生物多様性条約コミュニケーション・環境教育・普及啓発助言委員会委員（2016-2022）
1980年生まれ、千葉大学文学修士（哲学）
2004年より、日本自然保護協会の国際担当、国際自然保護連合（IUCN）の日本の窓口として活動。生物多様性条約締約国会議（COP）および関連会合に2007年から参加。日本人として最多参加し、環境省、IUCN、生物多様性条約等の委員も従事。



納家 仁 NAYA Hitoshi

日本野鳥の会大阪支部長
中学生の頃から野鳥観察をはじめ、バードウォッチング歴は50年。大阪湾岸部（主に泉州地域）でシギやチドリなどの渡り鳥の調査などを続けてきた。シギやチドリ類の減少に大きな危機感を抱いている。ディスカッションでは、昨年作成した「大阪湾シギ・チドリ渡来地復元計画」について紹介する。

三浦 仁美 MIURA Hitomi

95年より積水化学工業(株)に入社。研究所を拠点とし、耐火・断熱材料などのエネルギー制御材料の開発に従事しながら、ものづくりの実務経験を積む。2012年より本社における環境経営スタッフとして経営戦略の検討、施策の企画・展開を中心とした業務に携わる。現在、2013年策定の環境ビジョンにおいて描いたゴール「生物多様性が保全された地球」の実現をめざして加速できるよう、次期環境戦略の立案に向け取組んでいる。



大阪府 環境農林水産部

【環境管理室 環境保全課】

【みどり推進室 みどり企画課】

自然環境の保全に関する計画の策定や普及啓発、自然公園の管理・整備、都市緑化の推進に取り組んでいます。
大阪湾においては、堺第7-3区の共生の森において、植栽や草刈りなどのイベントの開催等により森づくりを推進しています。

大気汚染、水質汚濁に関する計画の策定や環境モニタリング、環境影響評価制度の運営や自動車環境対策等に取り組んでいます。
大阪湾の環境に関しては、きれいで恵み豊かな大阪湾の実現をめざして、流入する汚濁負荷量の削減のほか、湾奥部における生物が生息しやすい場の創出、海洋プラスチックごみ対策、自然とのふれあいの機会の創出等の取組みを推進しています。

Jeff Kew ジェフ・キュー



1959年1月23日生まれ。1995年よりRSPBに勤務（30年間）。現在の役職：沿岸アドバイザー
地方自治体およびRSPB（e-NGO）において、複雑な共同プロジェクトの開発に40年間携わってきました。ハンソンRSPB湿地プロジェクト（英国最大のヨシ原の創出）、ウオラシー島ワイルドコースト・プロジェクトの開発を主導し、最近ではイングランド東海岸の湿地を英国世界遺産暫定リストに登録申請しました。長年にわたり、シギ・チドリ類の標識調査と研究に積極的に関与し、沿岸プロセス、沿岸生息地の再生、そして沿岸変化に対する市民の理解と支持の構築という課題に関する知識と経験を有しています。国際的な活動としては、ヨーロッパ、北米、アジア各地での経験を活用し、崇明東灘（中国）の湿地生息地の設計に参加すること、バードライフ・インターナショナルの支援で韓国を2回（2016年、2017年）訪問したこと、そして韓国のゲボル（2023年と2024年）をゲボル世界遺産推進チーム、海洋水産省、韓国海洋環境管理公団（KOEM）の支援を受けて訪問した。最近の活動としては、韓国海洋水産部（MOF）との覚書締結、MOF/KOEM、韓国海洋研究院、忠清南道代表者による英国訪問の企画参加などがある。

佐久間 大輔 SAKUMA Daisuke

大阪市立自然史博物館学芸課長、関西自然保護機構運営委員。
1967年神奈川県生まれ。
里山の保全に関わり、利用の歴史と植生、生息地の保全や共生菌類などの研究を行ってきた。大阪・京都・奈良などのレッドリストや生物多様性地域戦略、保全団体・研究者・行政や企業を含めた対話のテーブルづくりにもながく関わっている。



英国王立鳥類保護協会(RSPB) とは

Royal Society for the Protection of Birds 120万人の会員を擁するヨーロッパ最大の自然保護団体。RSPBが英国内に所有する222カ所の自然保護区（159,000ヘクタール）のうち、84カ所が沿岸部に位置し、その面積は41,000ヘクタールを超える。



バードライフ・インターナショナルとは

1922年に英国で発足した世界で最も古い歴史を持つ国際環境NGOの一つ。英国・ケンブリッジに本部を置き、120以上の国や地域のパートナー団体とその200万人以上のメンバーとともに、学術的なデータに基づいて、各国の政府・企業・市民などに働きかけ、様々な環境保全活動を推進している。バードライフの研究に対する信頼性、保全手法の有効性、また地域社会に配慮した活動は高く評価され、IUCNレッドリストの鳥類部門の公式な評価機関。



国際自然保護連合（IUCN）とは

IUCNは「International Union for Conservation of Nature」の略称。1948年に創設された、自然保護を目的とした国際的なネットワーク組織。多様な組織や人々が参加し、生物多様性の保全や自然環境・資源の保護に向けた調査、研究、国際協力をしている。絶滅のおそれのある野生生物をまとめた「レッドリスト」の作成が有名。
日本は1978年に環境庁が日本の政府機関として初めて加盟、1995年に国家会員として加盟した。現在国際自然保護連合日本委員会（IUCN-J）には国内18団体が加盟している。

おおさか生物多様性シンボルマーク

「大阪府生物多様性地域戦略」の2030年の実現すべき姿である「全てのいのちの共生」を表現したデザインで、「おおさか生物多様性応援宣言」登録団体が使用できるロゴマークです。
（公社）大阪自然環境保全協会と日本野鳥の会大阪支部は、当宣言の登録団体となっています。

